

COLLEGE INFORMATION
甲子園短大通信
 甲子園短期大学 発行

〔第一部〕
 新成人の門出を全学挙げて祝福する式であると同時に、卒業を間近にひかえ、社会に飛び立とうとする二回生が、自らの責任と義務を再確認する誓いの場でもあります。



一月十一日(金)、甲子園学院理事長久米知子先生の「ご臨席を賜り、「平成二十四年度学内成人式」を執り行いました。
 学内成人式は、本学独自の行事として、昭和五十四年から行われ、今年度で三十四回目を迎えます。

平成二十四年度 学内成人式
 ～厳粛な中にも温かいメッセージ～

二回生は、新成人に相応しい引き締まった面持ちで、第一部の式典に臨みました。成人となる先輩たちをお祝いするため一回生も参加し、終始厳粛な雰囲気の中で執り行われました。

瀧上凱令学長からは、「社会人として生きていく基本、それは本学で身につけた校訓三綱領です。社会の中で実践することを願っています。そして、さらに成長していかれることを心から期待しています。」との祝辞があり、それぞれの夢に向かって新たに旅立つ二回生に対して、温かい励ましのエールとなりました。

それに応えて、学生代表として生活環境学科の大久保友葉さんが、学内成人式へのお礼の言葉とともに、「成人としての自覚と責任をしっかりと心に留め、自立した一人の女性として社会に貢献できるよう力強く歩んでいきたいと思えます」と若き溢れる誓いの言葉を述べました。

学院からの記念品として、二回生全員に台付袱紗が贈られ、生活環境学科の黒田優さんが代表していただきました。

〔第二部〕
 ソプラノ歌手の梅谷裕子氏とピアノ

二ストの武田直子氏をお招きして、「新成人へのメッセージ」と題し、お祝いと励ましの言葉と歌声とピアノのハーモニーを聞かせていただきました。

梅谷裕子氏は大阪音楽大学声楽科を卒業後、NHK「ニュースワイド六四〇」のキャスターやアナウンサーとして活躍されました。

その後歌手デビューされ、幅広いレパートリーで、海外をはじめ各地のチャリティコンサートなどにも数多く出演されています。今年デビュー十五周年ということで記念アルバムや記念コンサートを開催される予定です。

武田直子氏は京都市立芸術大学ピアノ専攻をご卒業後、海外留学され、帰国後幅広く演奏活動をされています。

梅谷氏の講演は、ご自身の体験を踏まえたお話でした。音大生からアナウンサーへの転身、男性社会の中の仕事の厳しさ、結婚、夢だった歌手への挑戦と、夢をあきらめずに頑張りぬくことや、人と人の絆の大切さなどのお話をいただきました。

「努力には、迅速・丁寧・継続・忍耐の四つのポイントがある。表情・言葉づかい・行動・姿勢を見つめ直し、様々な縁を引き寄せられるよう頑張ってください。」と語る梅谷氏の言葉には、新成人への温かな思いが込められていました。

お祝いの歌では、梅谷氏の美しい歌声と、武田氏のピアノ演奏との素



学内成人式に出席して
 学生代表 大久保友葉

第一部では、厳粛な中、成人となった私たちの「誓いの言葉」を代表で述べさせていただきました。これからは一人の女性として、自覚と責任ある大人になろうと思えました。

第二部の梅谷さんの話を聞きながら、生まれてからこの二十年を振り返り、今までたくさんの方々のおかげがあつてここまで来れたのだと感謝の気持ちを持つことが出来ました。素敵な歌声とピアノの音色に浸りながら、今感じているこの気持ちはとても大切なものだと思います。

成人となった私たちのためにこのような場を与えてくださり、心から感謝しております。



生活環境学科
 吉井 隆

白球を打つ醍醐味

大空の下自然の中で楽しむスポーツゴルフ。私は大学時代ゴルフ部に所属していました。ゴルフという優雅で贅沢な遊びと思われる人も多いと思いますが、学生ゴルフは違います。自分でバッグをかき、自然の中を駆け巡ります。私がゴルフを始めたきっかけは、テレビでトーナメントの中継を見たときです。実際にコースが美しく、このような中でプレーするなんてすばらしいなと思いました。池があり川があり林があり、そしてところどころに砂地のバンカーが配置されています。そのようなコースを風の状況やライの状態を判断し十四本のクラブを駆使しながら白球を打ち、最終的にグリーン上のカップを目指します。ボールをコントロールするのは思いのほか難しい技術です。ですから余計にゴルフが楽しくなりました。ラウンド後練習場へ行ってスイングのチェックをしたり、普段は電車のつり革を左手の三本指で握って左腕を鍛えたり、とにかく上手くなりたいという思いで毎日が過ぎていたように思います。

大学のゴルフ部は、体育会系の運動部

My Favorites



卒業する前に、学生最後の思い出としてゴルフ発祥の地イギリスのセントアンドリュースでプレーすることを決意しました。当時はそのようなツアーは当然ありません。自分で飛行機の手配や宿の手配をすることから始まりました。格安航空券を手に入れ、パキスタン経由でフランクフルトに到着しスコットランドを目指しました。セントアンドリュースは実にのどかでした。コースは海岸沿いであり、特に林があるわけでもなく平坦で雄大でした。現地のスコットランド人は、犬を連れ自分でカートにゴルフバッグを載せそれを引きながらのんびりとプレーし、これがゴルフの原点だと感じました。

早いものであれから三十年ほど経ちました。今はとても忙しくゴルフをする余裕はありませんが、いつかまた大空の下でプレーしたいと思っています。



「甲子園短期大学 大学祭二〇二二」を開催



平成二十四年十月十四日(日)、秋晴れの晴天のもと、大学祭が開かれました。今年「笑顔と絆 Koshien Carnival」をテーマに様々な催しが企画されました。本館では短大紹介コーナーや模擬店があり、中でも子ども遊びコーナーは盛況で、卒業生の子どもや一般の親子連れが大勢訪れました。

学生食堂では、各クラスが工夫を凝らした模擬店、教職員も協力したバザー、さらに学友会によるクイズ大会が開かれ賑わいました。

イネーブルガーデンの植木市は、園芸部がタネから育てた苗やエキウム蜂蜜が販売され、多くの地域の方々が来られました。

午後から開催のステージ発表では、各クラスや有志による歌・ダンスなど多彩なプログラムで、元気いっぱいのパフォーマンスが続き、教員のAKB48ダンス披露もあって盛り上がりました。フィナーレはプ



ライダル企画コース学生によるファッションショーで会場を沸かせました。今年も多くの地域の方々を迎え、在校生、卒業生、教職員が力を合わせた一日になりました。

同窓会総会も開催され、たくさん卒業生が訪れて旧交を温めました。最後になりましたが、学友会が募金活動を行い、西宮市大学交流センターを通じ被災地に届けられました。ご協力いただきました皆様、本当にありがとうございます。

◆学友会新役員決まる◆

- 平成二十四年十二月十四日(金)、学生総会が開かれ、平成二十五年度の学友会役員が承認されました。活躍を心から期待します。
- 会長 田中江利菜 生活環境学科
 - 副会長 井上 雅子 生活環境学科
 - 副会長 増田 佳奈 幼児教育保育学科
 - 総務 村上 由希 生活環境学科
 - 総務 藤井 麻里 生活環境学科
 - 書記 本田 奈々 生活環境学科
 - 会計 中谷百合香 幼児教育保育学科

甲子園短大通信 第74号
 (編集・発行) 甲子園短期大学広報委員会
 〒663-8107 西宮市瓦林町四一五
 TEL:079-651-3000 FAX:079-651-9101
 http://www.koshien-c.ac.jp



影絵

影絵の新たな魅力を発見する
研修となりま
した。
両研修とも
職場で活用
し、福祉・介
護従事者とし
て自己研鑽が
期待できる内
容でした。

兵庫県の「福祉・介護従事者キャリア
アップ研修事業」の補助を受け、卒
後・キャリアアップ研修を二回にわた
り開催しました。
第一回は十一月十
八日(日)に甲子
園大学の高橋紀子
先生を講師に迎
え、「職場での円
滑な人間関係のた
めにー心理学の視
点からー」と題し
た講演を聞き、参
加した卒業生や施
設職員から職場や生活で役立てたいと
感想がありました。
第二回は、一月二十日(日)に影絵
劇団かげつこの方々から「福祉施設、
幼稚園・保育園でのイベントプログラ
ム」として、影絵の方法を教わり、グ
ループ毎に工夫を凝らした影絵を制作
しました。色や遠近法を工夫する楽し
さなど、影絵の新たな魅力を発見する
研修となりました。



卒後研修会

平成二十四年度 卒後・キャリアアップ研修開催

論文部門では、生活環境学科から
「オシャレ」「園芸」の文化史、「食
生活」「介護・心理」に関する論文四
編と介護のケーススタディー二編の口
頭発表がありました。
いずれもパワーポイントを用いての
発表でわかりやすく、独自の視点で問
題意識を持って取り組みました。参加



二月一日、平成二十四年度卒業研究
発表会を開催しました。昨年度から
は、卒業研究だけでなく、優れた学習
成果の発表の場ともしています。
当日は、行事の企画や運営を学ぶ生
活環境学科生活環境専攻ブライダル企
画コース一回生が、学習成果の発表と
して司会と運営を担当し立派に務め上
げました。

二年間の学びの成果 卒業研究発表会を開催

生活環境学科は今

生活環境学科では二月四日から三日間
にわたりガイドヘルパー養成研修を
実施し、一回生二十七名が受講しまし
た。
講義では全身性障害者を取り巻く諸制
度や生活支援の方法を学び、演習では
ベッドや車いすを使って何度も移動や移
乗の介助を練習しました。



ガイドヘルパー養成研修

車いすでの
スロープや段
差での介助、
自動車への乗
降介助など
は、日常生活
においても役
立っている事
が、障害者福
祉に関心を持
つ機会となり
ました。

生活環境専攻の一回生は、プロの料理
家であるト部吉恵非常勤講師から実践
的なクッキング
の授業を受
けました。
授業では、
「白菜と豚肉の和
風クリームチ
ーズ鍋」等の本格的
な料理を教
えていただき
ました。



クッキング



まちかどデイハウスの見学

より施設の
活動内容の
講義を受け
た後、施設と
利用者さん
の活動の様
子を見学す
ることがで
き、園芸療法
を現場で学ぶ
ことができま
した。

幼児教育保育学科は今

「協働の大切さを学ぶ」

保育者は子どもと接するだけでなく、
保護者とのコミュニケーション・地域と
のかかわり、職員間の協働などにおいて
大人としてのマナーが求められます。そ
のことを学ぶ機会の一つが保育実習・教
育実習です。
一回生は、八月に初めての保育実習に
取り組み、悩みながら保育者への夢をス
タートしました。二〜三月の施設実習で
は、児童養護施設、知的障害児通園施設、
身体障害児通園施設で、子どもや家
族の抱えている問題に直面しながら、保
育士の役割やコミュニケーションの重要
性などについて学習しました。
二回生の九月の保育実習では、生後
二カ月から就学前まで子どもの育ちを見

通し、状況に応じた柔軟な保育計画の
大切さを学びました。また、インター
ンシップ実習から五回の実習経験を通
じ、保育者になる自覚を持った授業態
度が見られるようになりました。
幼児教育保育学科では一・二回生合同
で、連携授業を進めています。今回は、
幼稚園・保育所の行事についての意義や
目的を事前に学習して、十二月には「模
擬生活発表会」を行いました。
プログラムはオペレッタ・パネルシ
アター・ペープサート・手袋シア
ター・パ
ットシ
アター・
ハンド
パ
ン演奏
など、充
実した
発表に
なりま
した。二
回生は
司会進
行や幕
間の手
遊びを
担当し
て、保
育者の
役割を
学びま
した。



パネルシアター

普段は学年をこえて交流する機会が
少ないですが、この機会を通して様々
な表現の取り組み方や方法・内容など
深く学ぶとともに協働の重要性も知
ることが出来ました。
二回生は、連携授業で培った体験を
通して、保育者になる心構えを高める
ことと思えます。

資格は一生の宝もの



本学ではさまざまな資格取得をサ
ポートしています。今年度も資格試験
が始まり多くの学生が資格取得に向け
て頑張っています。

医療事務関係の資格ですが、二十二
名の学生がチャレンジ見事な成果を
あげました。診療実務士一級には十三
名、二級には九名が合格しました。試
験前に、与えられた課題をしっかり勉
強したことが、合格に結び付いたと思
います。なお、医療管理秘書士につ
いては全員合格でした。

話しことは検定は、十六名が受験し
十三名が合格しました。また、日商P
C検定や漢字検定も行われました。今
後より多くの学生がチャレンジするこ
とを期待しています。また二月には、
初級園芸福祉士やアロマコーディネー
ターの試験が、幼児教育保育学科の学
生に關しては、リトミック二級指導資
格の試験が行われました。学習した成
果が合格に結び付くことを期待してい
ます。

学生時代は、一生のうちで資格取得
に向けて勉強に集中できる最良の時期
です。積極的にいろいろな資格にチャ
レンジし、多くの資格を取得できるよ
う支援しています。



者からも多数の質問があり、学び合う
場となりました。
音楽部門では、幼児教育保育学科の二
名が、ブラームス作曲「二つのラプソ
ディー」作品七十九などのピアノ独奏に
取り組むとともに、ドレス姿も艶やかに
二人の連弾も披露しました。会場から
は、感嘆の声が上がっていました。
また、二回生の学習成果の発表とし
て、幼児教育保育学科の合唱や生活環
境学科介護専攻の手話コーラスも披露
されました。
実技部門では、両学科それぞれの特
色を活かした「お菓子の家」「園芸図
鑑」や、クロスステッチ刺繍で刺した
「テーブルクロス」「布絵本」「人形
の家」などのクラフト、コンピュー



ターソフトによるアニメーション制作
など、多彩な二
十一作品が展示
発表され、一回
生は、興味深く
作品を見ていま
した。
また、学習成
果の発表とし
て、ブライダル
企画コースの
一・二回生が共
同で制作したド
レスなどを展示
しました。
二回生は二年間の学びの集大成とし
て、一回生はこれからの学びの目標と
して、意義ある発表会となりました。

「短大書道展」開催される



「甲子園短期大学書道展」が、十
二月四日から九日まで西宮市立市
民ギャラリーで開催されました。
今回で三十回の開催となり、中
川攝陽先生、久米翠娥先生に協賛
出品をいただきました。
学生は、夏期錬成会での成果、
さらに二回生は卒業研究の発表の
場であり、出品総数は六十点に及
び、いずれも大力作揃いです。
会場には見応えのある作品とと
もに、お祝いに届けられた華やか
な生花が彩りを添えていました。
会期中の来場者は五百数十名を
超え祝電、お祝いの品が多数届け
られ盛会裏に終了いたしました。